

風土記の丘の花だより¹⁰⁶

今、そしてこれから見られる植物(2021年10月9日)

あちらこちらからキンモクセイの便りが届いていますが、風土記ではいつごろ甘い香りが漂うでしょうか。花だよりも回を重ねてくると、どうしても前にも紹介した草花が登場することが多くなってきます、「あ、またこの花か」と思わず、何度もその花を見て感動してください。と勝手な言い訳をしつつ、今回も4つご紹介します。



万葉植物園でミゾソバがきれいに咲いています。溝のような水辺に生えるソバという意味の名前です。ソバの花は白ですが、ミゾソバはピンク色が混じってとてもきれいです。水辺に生えるこの草の仲間も多く、アキノウナギツカミ、ヤノネグサ、サデクサなどどれもきれいです。でも残念ながらここでは見かけません。スマホや図鑑などでご覧下さい。近くの田んぼ周りでも生えているかな。探してみてください。



谷村家住宅の庭から東の方を見ると大きな葉の南国情緒あふれる植物が見えます。バショウです。植物園のバナナに似ていますが、バナナのようなおいしい実はできません。南国のイメージですが、紀中あたりでは普通に野外で栽培されています。冬には霜で枯れたようになりますが、また春に大きな葉を出します。



うすい水色のヨメナがよく咲いています。キクの仲間ですから、周りの水色の花びらを持つ花と、真ん中の花びらのない黄色い花がたくさん集まって一輪の花になっています。昔は食用にしたと言われていて、万葉集では「うはぎ」という名前で登場します。嫁菜に対して婿菜と呼ばれるシラヤマギクも咲いていましたが、今はもう散ってしまっています。



乾いた道端などでカゼクサが咲いています。と言ってもイネ科の花は「咲いています」という感じがしませんね。風が吹くとサラサラ揺れるので「風草」らしいですが、それならイネ科のほとんどはカゼクサですね。ところで、107号は次の次の土曜日の23日土曜日に発行します。悪しからずご了承ください。 松下